

## パネル討論 I : 男女共同参画学協会連絡会 10 周年記念

### 「男女共同参画の過去・現在・未来—学協会連絡会 10 年の歩みを振り返って」

司会：木村純子（福島県立医科大学）・白尾智明（群馬大学）

#### 1. 出発以前の頃

#### 半世紀を架けるネットワーク

NPO 法人知的人材ネットワーク あいんしゅたいん 坂東昌子  
(e-mail: bando@yukawa.kyoto-u.ac.jp)

1. 女性に大学の門が解放されてほぼ 60 年。戦後、女性科学者ネットワークづくりは、実は 1954 年のいわゆる「死の灰」による海洋の放射能汚染の調査研究を行った猿橋勝子博士から始まる。猿橋さんは、1958 年「日本婦人科学者の会」を創設された。

2. 大学院生が増加した 1960 年代、女性研究者のローカルネットワークが広がった。京都大学では、薬学白書への批判がきっかけで「婦人研究者連絡会（ふけんれん）」が発足した。

3. 研究と結婚・育児の両立のための条件は、保育所の存在だという結論に至った「ふけんれん」は、京都大学に保育所を作る運動に取り組み、それをネットワークの力で実現した。

4. さらに、「男性に限る」と採用条件に書かれる時代背景の中で、女性は当初から科学界に参画する意味を問いつつ、実態調査に基づき、女性科学者の地位向上のための取り組みを始めた。

5. 1980 年、初の女性学術会議会員に選ばれた猿橋勝子氏を中心に、婦人研究者の地位委員会は、科研費広領域に申請・採択された「婦人研究者のライフサイクル調査」を実施した。

6. この全国規模の綿密な調査は、その後の調査のベースになった。データに基づく主張は、説得力があり、学術会議の「業績がないから地位が低いのだ」という世論を変えた。

7. 1985 年、国際婦人年を契機に、国際的な圧力も加わり、雇用機会均等法をはじめ法的環境が改善され、国大協・学術会議を通じての科学界での男女共同参画への取り組みも活性化した。

8. 2002 年 3 月、世界で初の女性物理学者の国際会議「Women in Physics」がパリで開かれ、日本物理学会、日本応用物理学会が、協働して取り組んだ。国際的な世論を受けて学会が動き出し、この契機をさらに、多くの学会とのネットワークで「学協会連絡会議」が創設された。

こうして、遅れていた学会の男女共同参画も大きく進展した。とはいえ、物理学会が動き出した 2001 年、女性のいない理事会にまいこんだ「Women in Physics」参加要請だった。それからたった 1 年の間に、事態は急速に進んだ。学会がこんなに短期間にこれだけ変革できるのだ。それこそ、科学の持つ力ではないだろうか。考えてみれば、実現不可能に見えたこともネットワークを広げ、力をあわせると実現するのだということ、この間、体験してきた。歩みはのろいと感じることもあるが、変化というのは、時には急激に起こる。あなたの学会にも、もうすぐそこまで、変化の波はきているかもしれない。変化の機会を捉えて、働きかけることが大切だ。

データを踏まえ、男女共同参画という目標に向かって領域を超えたネットワークを組むこと、これを成し遂げたのは、日本だけではなくだろうか。ローカルなネットワークがようやく半世紀を経た今日、国のレベルのネットワークへ、そして世界を結ぶ架け橋を形成した。また、最近薬学部の方々が、卒業生の調査を始められた。学会で残った人の調査でなく、全数調査によって研究をやめていった方々の実態が明らかになっている。古い時代のこうした方々の苦労が今の私たちを支え、過去現在未来へとネットワークが広がっていることに、勇気づけられる。3・11 以後、科学者はどうあるべきかを問われたが、女性研究者の知性と感性が、こういう時には必要だと痛感している。学術界は、まだまだ閉鎖的で、科学をまっすぐに愛していない現状も痛感した。実務家を育てる医学や法学分野も含めて、学会のあり方、研究室のあり方、研究評価のあり方を、真正面から見つめなおすことが今問われているのではないかと。10 周年を契機に、更に新たな女性研究者の特質を発揮する歩みを期待している。

## 坂東昌子氏プロフィール



NPO 法人知的人材ネットワークあいんしゅたいん理事長。理学博士。  
1965 年京都大学理学研究科博士課程修了。同年京都大学理学研究科助手、  
1987 年愛知大学教養部教授、1991 年同部長、2008 年愛知大学を定年退職、  
同名誉教授に。2009 年より現職。その間、日本物理学会理事男女共同参画  
推進委員会委員長（初代）、同会長、同キャリアセンター長を務める。  
主な研究分野は物理学素粒子論ならびに非線形物理（交通流物理・経済物理  
など）、科学技術論、知的財産権、環境問題、統計教育、科学教育など。  
『4次元を越える物理と素粒子』（共著、共立出版）、『物理と対称性—クォークから進化まで』（丸善）、『理系の女の生き方ガイド』（共著、講談社）など  
著書多数。

息子と娘には、孫が 2 人ずつ。最近、孫と孫の友達の理数寺子屋を始めた。科学的な知識とノウハウを身に付けた若い研究者が能力を活かす道を見つけるためのサポート、女性研究者を励まし支援する活動、子どもたちに科学の心を育てるための活動、科学をやさしく語る活動など、ネットワークをつくり取り組んでいる。